

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1276600119		
法人名	有限会社 ヤシマ		
事業所名	グループホームハートライフ一宮		
所在地	千葉県長生郡一宮町船頭給230-5		
自己評価作成日	令和7年3月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://hrt-life.com/guidance.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPO共生
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15
訪問調査日	令和7年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活に重点を置いたホームの運営を目指しており、家庭の延長といったホーム作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本事業所は、日常業務に重点を置いた家庭の延長といったホーム作りを目指している。ユニット会議で理念を全員で復唱し、その後の業務に反映させている。利用者は朝の掃除や食事準備に自ら参加し、個別支援を通じて自立を促進している。積極的に地域活動に参加し、健康体操や福祉フェスティバルでの写真展示を通じて地域住民との結びつきを深めている。外出や外食を希望する利用者には柔軟に対応し、散歩、外食、ドライブなどを通じて社会交流を提供している。職員の提案を活かし、備品の買い替えや施設内センサーの設置、夜勤時の勤務軽減策としてマッサージ機を購入するなど職員の意見を尊重した環境が整備されている。また、外出支援では、スーパーで買い物カートを使用し利用者の転倒防止に配慮するとともに、季節の変化を感じられるように白子の河津桜や玉前神社の桜見物、大東岬灯台へのドライブ等を企画し、自然や風景に触れる機会を提供している。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の時に理念の確認を行い共有している。 ご家族の協力を得ながらご本人が生活しやすい環境づくりを行っている。	ユニット会議で施設長が理念を読み上げた後、全員で復唱する取り組みを行っている。利用者には朝の掃除や食事準備に参加してもらい、安全を確保しつつ自立を支援している。さらに、面会時の外出や外食を推奨し、社会との繋がりを維持する工夫がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の健康体操への参加やボランティアの方々に来ていただいている。	地域の健康体操や産業まつり、農耕祭への参加を積極的に行っている。花火観賞は近隣施設の屋上を活用し、利用者が安全に楽しめる環境を整えている。さらに、福祉フェスティバルでは写真展示を通じて事業所の活動を発信し、地域との繋がりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一宮町主催の福祉フェスティバルへ参加を予定していたが、新型コロナウイルスの蔓延に伴い中止となった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ、インフルエンザの感染予防のため、やむを得ず行政、区長、民生委員の参加は4月10日のみとなってしまった。 感染状況を見て、関係者そろっての開催をしたい。	年4回の会議を予定していたが、感染症予防のため2回の開催に留まった。福祉健康課や地域包括、民生委員、家族等が参加し運営状況の報告後に質疑応答を実施した。民生委員からは敬老の集いの計画について説明があり、家族からは緊急時の対応に対する安心感や感謝の声が寄せられた。	地域密着型サービスに係る外部評価実施回数緩和要件の一つとして、運営推進会議が過去1年間に6回以上開催していることがあるため、年間6回以上開催することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福祉健康課の窓口へ伺った際や、事業者懇談会の際に情報交換等を行っている。	役場に行き、生活保護受給者に対する毎月の医療券手続きや入院時の手続き、各種相談を行っている。年2回の事業者懇談会では情報交換を行っているがその必要性が低下しつつある。地域包括とは利用者の対応に関する相談や入居情報の交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への参加や社内の勉強会等を行い実践している。	インターネットを活用した認知症の法定研修を実施し、職員全員が動画視聴後に感想を書いている。年2回身体拘束に関する約10項目の動画研修を行いレポート提出を義務付けている。さらに感染症対策の研修もホーム内で実施している。外国人職員2名も日本語を十分理解し、スピーチロックの問題もなく、適切なケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内の勉強会や外部の研修等を通じて防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用した入居者もあり、理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡の際に意見や要望を伺っている。面会制限中は介護記録を定期的にお送りし、様子を把握して頂くように努めている。	家族からの要望で利用者の指の腫れについて医師へ相談し、その結果を報告した。利用者調査で職員の名前が分からないとの意見を受け、玄関への掲示を検討している。利用者の「外に出たい」「寿司が食べたい」との要望には、職員が散歩に同行し、家族に連絡して寿司を持参してもらうなど柔軟に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議の場において意見を聞く場を設けている。	毎月のユニット会議で職員の意見を収集し、必要に応じて対応している。フライパンの買い替えやカメラ設置部屋へのセンサー追加などの提案があり、施設長が判断し対応を行った。また、夜勤時の負担軽減を目的にマッサージ機を購入する等、職員の働きやすい環境整備にも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境になる様に努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの蔓延により外部研修への参加が制限されているため、Webによる研修システムを導入し、個々のスキル向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一宮町主催の事業懇談会への参加や個別に他施設と飲ん連絡を取りあい情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族と話をし、アセスメントを行い、計画作成担当者・ケアマネ中心にサービス内容を提供している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族と話をし、アセスメントを行い、計画作成担当者・ケアマネ中心にサービス内容を提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時にご本人・ご家族と話し、何を望まれているのかをよく確認した上で、必要であれば他のサービスの紹介も含め行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の動作の中で、出来る事はして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子観察の中で、必要に応じホーム側より連絡し、来訪の機会作りを促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限が解除されているのでご家族に近況報告を兼ね面会や外出の依頼を行っている。	面会は自由であり、家族や友人が訪れる機会を大切にしている。季節の変化を感じられるよう、白子の河津桜や大東岬の灯台、白鳥が飛来する田圃へのドライブを実施し、途中で鯉のぼりを見たり散歩では桜を楽しむなど、自然や風景に触れる機会を提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入る事によって、孤立しない様に努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	機会を作り、退居後の様子伺いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や表情、生活歴も踏まえ、思いをくみ取るようにしている。	利用者の思いや意向を明確にするため、答えやすい質問を工夫し、相手の反応を捉える取り組みが行われている。肯定的な反応では笑顔や発語が確認され、否定的な場合でも一歩踏み込んで真意を探る姿勢が見られる。また、過去の職歴や経験を活用したアプローチとして、旅行代理店に勤めていた利用者には旅行のチラシを示すことで、自発的かつ生き生きとした説明を引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様一人一人の連絡ノートを作り、職員間での情報の共有を図っている。今までと変わらない生活が出来る様に環境づくりを心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや、様子観察で把握する様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	来訪時や電話連絡の際に、以降の確認を行い、介護計画に反映させている。	面会時に家族から利用者の足指に腫れと膿が見られるとの申し出を受け、医師に相談したうえでその結果を家族へ報告した。また、再発の可能性に備えて朝夕の患部確認を行い、状況の経過観察を続けている。家族から刺激を受ける生活を希望する要望を受け、可能な範囲でお手伝いをお願いし、生活の質の向上を目指している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に記録を残し、全員が把握出来る様にしている。問題等が起これば、その都度カンファレンスやミニカンファを行い、対応を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族からの要望に対して、別途場を作り対応する様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を利用する機会は少ないが、地域資源の把握はしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人に対する医療ニーズをご本人、ご家族と話し合い、納得の上でかかりつけ医を決めていただいている。 また、ご家族やご本人の意向を医師に伝えている。	入居前のかかりつけ医からホーム提携の主治医への変更を進め、月2回の訪問診療により健康管理の一元化を図っている。また、内科以外の専門医についても主治医を通じて適切な医師に紹介される仕組みを整え、通院時は家族に協力を依頼し、都合がつかない場合には有料で職員が付き添っている。さらに、歯科の訪問診療を毎週受けるなど、利用者の幅広い医療ニーズに対応する体制が確立されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は利用出来ていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、ソーシャルワーカーに依頼して先生や看護師から状況の説明をして頂き、状況の把握を職員全員が出来る様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の現在の状況はご家族への電話等で報告しており、必要に応じ今後の方向について話し合いの場を設けている。治療に関する希望、意思表示の「事前要望書」を記入していただいております、定期的に見直しを行い主治医と共有している。	今年度は看取り実績が1件あった。入居時に重度化対応の説明を行い、経過に応じて家族の意思の再確認を実施している。訪問診療の主治医の見解を踏まえ利用者の状況確認を進めており、看取り加算を前提とした研修は実施していないが、医師の指示を受け緊急時対応マニュアルに基づく行動が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成を行い、実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛消防訓練 令和6年4月24日、10月4日 水災害避難訓練 令和6年9月29日 上記を実施した。	今年度は6月と10月の消防設備点検時に自衛消防訓練が実施され庭先への避難が行われた。9月に水災害避難訓練も実施している。非常時に備え、非常用電源としてソーラーパネルを活用する体制が整備されている。非常用水に関しては井戸の利用が検討された例もあり、幅広い災害対策が講じられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重や尊厳を大切に接遇を行っている。	利用者一人ひとりの尊厳を守るため、否定の言葉から始めない姿勢を徹底している。「これはダメ」といった表現は尊厳を損ないかねず、コミュニケーションを妨げる恐れがあるため、「xxはどうですか？」など相手の状況を確認するアプローチを取ることで、適切な対応と関係の構築に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションのとり方を工夫し、結果を職員の間で情報共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての利用者様が希望に添って過ごすまでには、なかなか出来ないが、努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好みの服を選んで着て頂いたり、女性化粧等をされ、楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活リハビリテーションの中で、食事の準備や後片付けを一緒にしていただいている。ご本人の状態にあった形態で提供している。	食事の準備や後片付けを生活リハビリテーションの一環と捉え、生活リズムの中での支援を行っている。また、他者の役に立ちたいという根源的な欲求を尊重している。さらに、日々の食事だけでなく、月一回程度の行事食を通じて、冷やしソーメンやおやつ時間のたこ焼きパーティといった共同で料理を作り楽しむ機会を提供することで、喜びや交流を促進し、参加者にとって意義ある体験を創出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や、水分量をチェックし、状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員見守りや介助の中、食後に口腔ケアを行っている。定期的に訪問歯科や口腔ケア指導においてケアの仕方や確認をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。立位保持が出来る様に、立位練習を行っている。	タブレットを活用し、排泄記録を詳細に記録して定期的に確認しながら適切なトイレ誘導を行うことで失禁の減少に寄与している。また、自然な排泄を目指し、歩行訓練や立ち座り運動、足の体操などを取り入れる工夫を行い、自立支援を促進している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全員が体操や体を動かす運動に参加できるようにしている。また、食物繊維の多い食品を献立に取り入れる等、工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	長湯にならない様にして体調を崩さない様にしている。会話等をしながら楽しく入浴いただいている。	入浴支援では、脱衣所から着替えまでを約30分と設定し、長湯が好きな利用者にはのぼせ防止からもタイマーを活用している。入浴は心を許す時間であり、会話を通じて趣味や昔話が広がり、その中で利用者の未知の生活歴を知ることができる場ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	見守り、様子観察の中で体調を見て配慮している。必要に応じて主治医にも相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の疾病と薬の内容を把握し、間違いが無いよう、服薬時は準備する時と服薬する時に、必ずチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や出来ることを把握し、日常生活に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物と一緒にいく機会を提供している。	日常的な外出支援として、散歩や食料買い出しの際に利用者ともに出かけ、スーパーでは買い物カートを使用して転倒防止に配慮している。また、白子の河津桜や玉前神社の桜見物、大東崎灯台といった季節を感じられる場所へのドライブを企画し、利用者が楽しめる機会を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は原則として行っていない。必要時には、ホーム立替により購入している。購入時は、ご本人と一緒に買い物に行くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	相手の協力が得られた所には電話の支援もしている。手紙は書いて頂ければお出ししている。ご本人様持ちの携帯電話でご家族と連絡を取っている入居者様もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月々や季節で飾りつけを変更し、季節感を味わって頂ける様に工夫している。行事やドライブに行かれた際の写真を飾り、その後も思い出を楽しめるようにしている。	利用者が安らぎや充実感を感じられる共有空間の実現を目指し、共同制作による模造紙や貼り絵を飾ることで季節感を楽しめる環境を整えている。また、散歩で摘んだ菜の花を花瓶に飾るなど自然に触れる工夫を行い、リビングでは各人が可能な範囲で生活の一部となる作業を取り入れることで、心地よさと活力を生み出す場を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ等を設置し、談笑したり一人でゆっくり出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの物を持ってきて頂く様支援し、ご家族との写真を飾ったり、アルバム等を持ってきていただいて、落ち着いて過ごせるように工夫している。	居室では家族写真や誕生日会の写真が飾られ、写真を通じて昔を思い出すきっかけが生まれ、利用者は親しみを込めて家族の話をする事が出来る。また、リビングに飽きた際には一人でテレビを見る利用者もあり、14室には家族の承諾を得てカメラを設置し、安全確認の配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事・わかる事はやって頂き、出来ない事・わからない事は職員がお手伝いして、出来るよう支援している。		